

「うた乃」収穫期の管理について New!

農業研究所にて9月24日に定植した「うた乃」(9cmポット、二次育苗法)では1月5日現在、頂果房、1.5番果房の収穫が終わり、第一次腋果房(2番)が肥大中で、第二次腋果房(3番)も出蕾しています。

基本2芽管理とし、2番果房の着果数の目安は果房あたり5~6果実ですが、芽数(果房数)が増えている場合は適宜摘果数を調整してください。3番果房も続いてきますので、株あたりの果数が増えすぎないように摘果により株疲れと味落ち防止を図ってください。

草勢を保ち、連続出蕾を促すため、夜温を保ち、日中は27℃を目標に管理してください。気温が低くなり、灰色かび病が発生しやすくなってきました。研究所の暖房設定温度は5℃ですが、早朝2時間程は10℃としました。

花数が少なくなると交配昆虫(ミツバチ)が弱りやすいので草勢維持(花数)や晴天日中の訪花適温(20~25℃)確保を目指してください。ミツバチは30℃以上の高温に弱いので暖かい日中は換気にも注意してください。

【参考】研究所での給液管理は12月初めから1日5分(朝3分・昼2分、約170ml/日/株)で、給液ECは約0.65mS/cm、排液ECは約0.3mS/cmです(原水EC約0.1)。株あたり窒素量に換算すると1日あたり約12mgです。葉柄中硝酸態イオン濃度は約2,300mg/ℓです。12月に入り給液量を減らしましたが、排液ECが上がってきたため給液ECを上げすぎないように注意しています。栽培システムや培土条件等により適切な給液管理が異なりますので適宜調整をお願いします。



株の様子

2 番果房

「うた乃」生育状況(農業研究所1月5日撮影)